

はあもに *Harmony*

Vol.13
2024年5月発行

「それでも変わらないのは、
誰もが大切な存在であるということ」
女性のための新しい法律ができたこと、ご存知ですか？

人生は、
上手くいくことばかりではありません
加藤直子

認知症を知る
認知症看護認定看護師 楠元陽子

国際女性デー
だから、女性たちを祝い、
支えることが大切なのです



To Women, For Women, and By Women

神の愛がどれほど広く、どれほど高く、
どれほど深いかを理解することが
できますように。

聖書 エペソ人への手紙3章18節（リビングバイブル訳）

May you have the power to
understand, as all God's people should,
how **wide**, how **long**, how **high**,
and how **deep** his love is.

Ephesians 3:18 New Living Translation

はあもに

第13号 もくじ

あなたが笑顔の向こうでどんな苦しみを抱えているか

ぜんぜん知らなかった

泣きたくても必死で強そうにふるまっているのを

知ろうともしていなかった

あなたが大切だから

これからも一緒に座って語り合いたい

無理に笑顔をつくらなくていいけれど

一緒に笑って、一緒に泣いて

そんな時間を重ねていきたい

はあもに
Harmony



- 4 「それでも変わらないのは、
誰もが大切な存在であるということ」
女性のための新しい法律ができたこと、ご存知ですか？
救世軍女性自立支援施設 施設長
室孝子、熊田栄一
- 10 どんな小さな草や花たちも
押し花ミニストーリー
丸畑美智子
- 12 ばいぐるメッセージ
人生は、上手くいくことばかりではありません
加藤直子
- 14 認知症を知る
ブース記念病院 認知症看護認定看護師
楠元陽子
- 16 いのりのじかん
いつでも、誰かのためにささげる祈り
藤井千明
- 18 国際女性デー
だから、女性たちを祝い、支えることが大切なのです
- 19 はあもにのおしらせ
きずな献金のご報告
『はあもに』定期購読のご案内

国際女性デーは別名「ミモザの日」と呼ばれています。この日、男性から女性へミモザの花を贈るイタリアの習慣から命名されたと伝えられています。黄色い小さなミモザの花は、厳しい冬が終わり、暖かな春の訪れを告げます。その一つひとつの花が尊く、大切で、女性のシンボルとして愛されています。

『はあもに』は、すべての女性のためにつくられた雑誌です

「それでも変わらないのは、誰もが大切な存在であるということ」

女性のための新しい法律ができたこと、ご存知ですか？



2024年4月、新しい法律が施行されました。
『**困難な問題を抱える女性への支援に関する法律**』
DV、貧困、若年妊娠、精神疾患、性的搾取、障害、外国籍などにより、社会生活に困難を抱える、支援が必要な女性のための法律です。

男女平等がうたわれる現代ですが本当にそうでしょうか。体も心も傷ついて、自分はどうすればいいかと思いつながら生きている女性がいること、本当に幸せになりたいと願ってもそれを妨げるものがあることなど、女性軽視の女性観に対してこれを変えていく使命がこの法律にはあると感じます。
この重要なことを皆で考えることに、とても意味があるのです。関心を寄せていけば、より深く向き合うことにつながるからです。

女性も男性も、もっと自分を大切にしたい、もっと性を大切にしたい。そのためには、まず、一人ひとりが大事にされるということが、救いになるかもしれません。

室 孝子

室 孝子
Takako Muro
女性自立支援施設
施設長

救世軍は2つの女性自立支援施設（これまでは婦人保護施設と呼ばれていた）を運営しています。廃娼運動から始まった女性のための支援は、時代を経て、更なる変化の時を迎えようとしています。長年女性支援に関わってきた2人の施設長がお話しくれました。

困難を抱える女性って、どんな女性？

困れば女性は体を売ればいいじゃないかという考えが残念ながら世の中にはまだまだあります。体を売らないと生きられない現実があり、本当はそうしたくないけれども、自分をだましながらいせざるを得ないという人々がいます。そのようなことをしなくてよいように、自分は困っているという発信ができ、困難を抱えるすべての女性の相談を受けましょう、というのが新しい法律です。

「困難な問題を抱える女性」とはどんな女性ですか？と聞かれますが、性的な被害や、家庭の状況、地域社会との関係性その他様々な事情で、自分や家族の生活がうまくいかないと感じている女性（※注1）と言えればいいでしょうか。とにかく、本人が困難と思ったら困難ということになります。

自分は大変な状況にあるのかもしれないということを考えて、それに向き合ったら、その時点で助けを求めてよいということです。

気がついたときには被害者になっている若者たち

自分は被害を受けているという自覚がない状態で、風俗に関わる女性がいます。大学に通うために短期間、風俗で働くという若い女性は、皆さんが思っているよりも多いのです。若い人たちにとって、売春に対するハードルはかなり下がっています。彼女たちはお金のために簡単に体を売ってしまうのです。最近では、大学生の仲間内で性被害を受けるような場面に誘われることも起きていますし、また逆に、性加害の側に加わってしまったり、性加害の側にもあります。仲間外れにされることを恐れるあまり、気がついたら被害者になっていることが多いのです。

嫌だと思えること、危険を感じられることが大切なのです。

売春をやめたいと思って一度は抜け出しても、結局はお金を稼げるから、と戻ってしまうケースもあります。定職についても自己肯定感が低く、ちょっと注意されると仕事を辞めたくなくなってしまふ。このような生きづらさを抱えている人たちがいるということです。

これまでは、たとえ困難があっても仕方なく売春したとしても、またそれによって利用されてしまったとしても、捕まった女性が売春防止法で罰せられるという世の中でした。
売春防止法では売春をする女性は社会の秩序を乱す存在として、取り締まりの対象となっていたんです。売春には買う側の男性の存在があるはずなのに不思議ですね。
時を経て、彼女たちに支援が必要な背景があると、ようやく知ることになりました。
知的な課題があったり、幼い時に虐待を受けていた事実があることも多いです。売春する女性たちは、罰せられて保護更生を必要とするのではなく、支援が必要であるという考えに沿って法律が作られています。

※注1 新法第2条には、「『困難な問題を抱える女性』とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む）をいう」とある。

はあもにの おしらせ

きずな献金は、私たち一人ひとりができる、海外支援です。

きずな献金は、かつて『一元献金』として皆様に親しまれ、長い間支えられてきた海外支援募金です。海外の救世軍とつながり、資金を必要としている国の中から、その年の支援先を決め、プロジェクトを聞き取ります。2023年はミャンマーの人身取引防止のための啓蒙活動に用いるため、1,212,918円を送金いたしました。

2024年は、香港の救世軍グループホームの子どもたちのために支援をします。トラウマをケアするための環境を整備するプロジェクトです。

『はあもに』の1年間の売り上げの約30%は、『きずな献金』に寄付されます。2022年の売り上げからは、109,733円を寄付することができました。

これからも、きずな献金へ温かいご協力をお願いいたします。

きずな献金についてもっと詳しく知りたい方は、こちらの動画をぜひご覧ください。過去のプロジェクトもご覧いただけます。



救世軍公式ウェブ
サイトからも献金
できます↓



発行日 2024年5月1日 はあもに第13号
定価 200円（税込・送料別）年間3回発行
発行所 救世軍本営 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
TEL: 03-3237-0881

発行者 スティーブン・モーリス
編集責任者 ウェンディ・モーリス
編集者 西村和江 石川芳子 平本征子 齋藤恵子
田中民（グラフィックデザイナー兼）
創立者 ウィリアム・ブース
大将 リンドン・バックingham

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会
©本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断転載・使用を禁じます

救世軍は、キリスト教（プロテスタント）の教会で、伝道活動とともに、様々な問題で苦しみ、助けを求めている人々のために、130以上の国で社会福祉・教育・医療などの支援を行っています。救世軍について詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.salvationarmy.or.jp>



3月8日

国際女性デー

International Women's Day

1975年、国連は3月8日を「国際女性デー」として制定しました。すばらしい役割を担ってきた女性たちによってもたらされた勇気と決断を称える日です。



日本の救世軍女性の働きでは、2024年4月に施行された『困難な問題を抱える女性への支援に関する法律』について関心を寄せています。これまで以上に小隊や施設が身近な女性たちの必要に心を注ぎ、寄り添うことができるように、共に考える機会をつくっていきたくて願っています。（4ページ参照）

『はあもに』を通じて、これからは、社会正義や女性たちの生き方、考え方を、様々な視点から発信していきます。

国連女性の地位委員会
救世軍万国本営（ロンドンにある本部）では、「社会正義委員会」の女性グループが発足し、全世界から参加者を募って、一年間の学びを行っています。

また、今年の3月には、「国連女性の地位委員会フォーラム」がニューヨークで行われ、オンライン参加も呼びかけられました。日本からの参加者がどのようなことを学び、どのように感じたのか、次号『はあもに』で報告しますので、お楽しみに！

救世軍の共同創立者であるカサリン・ブースが、「女性が教壇に立つことは不自然でも不謹慎でもありません」と語って以来、救世軍では女性たちがリーダーシップを発揮してきました。そのように語ったカサリンの心には、聖書に出てくる、初代教会で預言し祈った女性たちがいました。

「ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」
(ガラテヤの信徒への手紙3章28節)

女性と男性の力関係の極限にあるものが、昔から続いている家庭内暴力（DV）の恐怖です。救世軍の「性差別に関する見解表明」によれば、15歳から44歳の女性が男性からの暴力によって傷ついたリ死亡したりする確率は、癌、マラリア、交通事故、戦争を合わせた数よりも高い、となっています。

「女性と男性が平等な機会と権利をもてば、経済成長は加速し、貧困率は急速に低下する」ということが、国連の調査によってわかっています。女性の地位が向上すれば、社会全体が恩恵を受けるということなのです。

3月8日、国際女性デーは、女性たちの功績を称えて、女性への不正に対して気づきを促し、平等な世の中をつくるために行動を起こす日です。

救世軍は、このビジョンをサポートできることを誇らしく思いま

国際女性デーは、すべての人のためのものなのです。

だから、女性たちを祝い、
支えることが大切なのです



あなたは、周りにいる女性たちにどのくらい気づいていますか？ 人生で関わった女性たちの功績や努力に目を向けたことはありますか？

3月8日、ロンドンにある救世軍万国本営（本部）では、そこで働く女性スタッフやカフェに来たお客様に素敵な「気づき」をプレゼントしました。小さなギフトバッグの中には、感謝の言葉と聖書の言葉が入っています。神様は私たちに気づいて愛してください、と。

次号は2024年9月発行

『はあもに』定期購読のご案内

* 売上の一部を「きずな献金」として海外支援に用います

定期購読料	1冊200円（税込・送料別） 年間3回（1月、5月、9月）発行 合計600円（税込・送料別）
-------	--

ぜひ定期購読をお近くの救世軍へお申し込みください

お問合せ

救世軍本営 女性部はあもに係（QRコード右）
TEL: 03-3237-0881（代） FAX: 03-3237-3588
E-mail: jpn.women.harmony@jpn.salvationarmy.org
Address: 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17

